

以降で、確認状況を基に、陸上昆虫類、鳥類、哺乳類の順に、動物と植物との関係を個別に考えていきます。その上で、動物と植物の関係を、総合的に図に整理しています。

### 昆虫

平成12年秋に、陸上昆虫と植物群落との関係について調査しました。調査の結果、484種の昆虫が確認できました。調査は、植物の群落毎に任意採取調査及びベイトトラップ法調査により行いました。

植物群落毎に、優占種及び依存種を一覧表に整理しています。

#### (1) 植物群落別昆虫類確認状況(秋季)

種生番号	河川環境	群落名	調査方法	群落における確認状況	優占種	依存種	
0	自然裸地	自然裸地	ベイト	ハサミムシ目オオハサミムシやコウチュウ目スジミズアトキリゴミムシなど乾燥した環境に生息する種が確認された。	オオハサミムシ ヨメナスジハモグリバエ スジミズアトキリゴミムシ		
1-2	沈水・浮葉植物	オオカナダモ	任意	本群落では、主にトンボ目イトトンボ科の幼虫が多く確認された。イトトンボ科の幼虫は流れの穏やかな河川や池沼に多くみられるが、本地点では静かな生育地になっているようであった。	クロイトトンボ ホソイトトンボ		
2-1	水際の草場	ヨシ	任意	本群落では、植物体の茎等から吸汁するカメムシ目の昆虫類が多くみられたが、休息に利用していると考えられるハエ目も多く見られた。また、昆虫類を捕食するクモ類も見られ、多様な昆虫類が生息していた。	コバキヒョウタンガカメムシ ヒトデツヤホソバエ オスクロハエトリ		
			ベイト	水際近くに確認種数・個体数は少なかったが、環境適応力のあるアリ科などが確認された。	キロシリアグアリ トフシアリ セシアカムネグモ		
2-2		ツルヨシ	任意	本群落ではクモ目やハエ目が多く見られた。また、植物体の枯れた部位に寄るコウチュウ目やイネ科植物に寄生するカメムシ目なども確認された。確認種数は他のヨシ群落と同じくらいであった。	アカヒゲホソドリカスミカメ ウスチャヒメマキムシ ハナグモ	アカヒゲホソドリカスミカメ アカスジカスミカメ	
			ベイト	比較的乾燥した砂質土壌に多いハサミムシ目オオハサミムシやコウチュウ目コアオマルガタゴミムシなどが見られた。	オオハサミムシ コアオマルガタゴミムシ		
2-3		セイタカヨシ	任意	本群落を休息の場利用していると考えられるハチ目やハエ目が多く見られた。また、ヨシ群落の群落に依存しているコウチュウ目セシジメテントウも確認された。	ヒトデツヤホソバエ ウスチャケシマキムシ	セシジメテントウ	
			ベイト	草地など比較的明るい環境に生息するコウチュウ目アオゴミムシやバクダ目シバズなどが確認された。	アオゴミムシ オオナガゴミムシ シバズ		
2-4		ミゾソバ	任意	本群落は水際の湿地に形成され、付近で羽化したと考えられるハエ目ユスリカ科が多く確認された。また、葉上ではコウチュウ目のテンサイトビハムシが多く見られ、葉を摂食する個体が確認された。	ミウオビツヤユスリカ テンサイトビハムシ	テンサイトビハムシ	
			ベイト	湿度の高い土壌に好んで生息するコウチュウ目オオゴモクムシが多く確認された。また、暖かい草地に多いバクダ目シバズも確認されている。	オオゴモクムシ オオゴモムシ シバズ		
2-9			ヤナギタデ	任意	本群落では付近で羽化したと考えられるハエ目ユスリカ科や湿度の高い環境を好むコウチュウ目アオバアリガタハネカクシなどが多く、群落を形成する環境が見虫類の生息に大きく関わっていた。また、本群落からはカメムシ目モモアカハナカスミカメが多く確認された。	モモアカハナカスミカメ <i>Rononeure spinicauda</i>	モモアカハナカスミカメ

(2) 植物群落別昆虫類確認状況(秋季)

植生番号	河川環境	群落名	調査方法	群落における確認状況	優占種	依存種
3-1	河川林	アカメヤナギ	任意	本群落では、ヤナギ類に依存するカメムシ目ヤナギグンバイやハエ目ヤナギハモグリバエなどの昆虫類が確認されたが、総確認種数は多くなかった。	ヤナギグンバイ ヤナギハモグリバエ	ヤナギグンバイ ヤナギハモグリバエ
			ベイト	比較的乾燥した土壌に多く生息するハサミムシ目オオハサミムシや主に湿潤な土壌に生息するコウチュウ目オオゴモクムシが確認されたことから、本群落は乾燥地の変化にそれほど大きな影響を受けないと考えられる。	クロヒメアリ オオハサミムシ オオゴモクムシ	
4-1	氾濫地	アイアシ	任意	本群落ではハエ目やハチ目きわずかに確認したが、種数・個体数ともに少なかった。本群落は汽水湖の湖畔に形成され、湖の干満の影響を大きく受けるため昆虫類の生息には適当でないと考えられる。	ホソクビアリモドキ ヒトデツツヤホソバエ	
			ベイト	環境適応力の強いアリ科や砂地に生息するオサムシ科コアオマルガタゴムシなどが確認されたが、確認種数は少なかった。	アメイロアリ コアオマルガタゴムシ	
4-2	氾濫地	シオクグ	任意	本群落ではイネ科やカヤツリグサ科草本に寄生するカメムシ目などが数種確認されたが、総確認種数は少なかった。アイアシ群落と同じような環境に形成され湖の影響を受けやすいため、昆虫類の定着が難しいと考えられる。	アカヒゲネソミドリカスミカメ カヤウシカ	アカヒゲネソミドリカスミカメ カヤウシカ
4-3		イセウキヤガラ	任意	本群落ではハエ目や湿地に多いコウチュウ目ハネカクシ科などがわずかに確認された。本群落は汽水湖の干潟付近に形成され、満潮時にはほとんどが水没するため、確認種の多くは干潟時に飛来し休止していた種であると考えられる。	ニセユミセミツハネカクシ ヒメトビウシカ	ヒメトビウシカ
5-2		コウボウシバ	任意	本群落では植物体の茎や葉から汁液を吸うカメムシ目のヨコバイ類や比較的明るい草地に多いコオロギ科などが見られたが、乾燥した環境であるため昆虫類は多くなかった。	イグチホシヨコバイ シバズ	イグチホシヨコバイ ミドリヨコバイ
			ベイト	草地など明るい環境下に生息するアリ科やコオロギ科シバズが確認されたが、コウチュウ目などは少なかった。生息種は他の砂丘植生群落と共通種が多かった。	クロヒメアリ ヒメアリ メクラナガアリ	シバズ
5-3		ハマエンドウ	任意	氾濫地植生の中では最も確認種数が多かった。本群落では植物体に寄生するカメムシ目をはじめ、アリ科やハチ目科などのハチ目が多かった。また、つる性植物のため地表を這うように群落形成されており、多くのバツタ目が休息に利用しているようであった。	シバズ マダラバツタ モモアカハカスミカメ	ウラナミシジミ
			ベイト	草地に生息するアリ科やコオロギ科が確認されたが、確認種数は少なかった。確認種は他の砂丘植生群落と共通種が多かった。	トフシアリ トビイロシワアリ シバズ	シバズ
5-4		ケカモノハシ	任意	本群落では草地に多いバツタ目やカメムシ目が確認されたが、多くの昆虫類の生息条件に達しない乾燥した砂地に形成されているため、確認種数は多くなかった。	ヒロバネカタン ハマベアワフキ	
			ベイト	少数のクモ類とコオロギ科などが確認されたが、確認種数は非常に少なかった。本群落は乾燥した砂地に形成される上、群落形成植物の密度が稀であるため、昆虫類が利用しにくいことが考えられる。	オオヤミイロカニグモ ルリアリ	
5-5		コウボウムギ	任意	本群落では、草地に多いバツタ目や草本類で果汁するヨコバイ科も確認された。本群落は汽水湖の乾燥した砂地に形成されるため昆虫類は多くなかった。	イグチホシヨコバイ シバズ	
			ベイト	明るい草地などに生息するアリ科が多く確認されたが、比較的乾燥した土壌に多く見られるハサミムシ科も3種確認された。本群落の確認種数は他の砂丘植生と同様多くなかった。	クロヒメアリ ムネボンアリ シバズ	ハマベハサミムシ ヒゲジロハサミムシ

(3) 植物群落別昆虫類確認状況（秋季）

植生番号	河川環境	群落名	調査方法	群落における確認状況	優占種	依存種
6-1	在来雑草 （背が低い）	ヤブガラシ-カナムグラ	任意	本群落はつる性植物で他の植物を被うように群落形成するため日当たりがよく、比較的多くの昆虫類が確認された。特にカメムシ目の個体数が多く、これらの昆虫類を捕食するクモ目も確認された。	クロバカスミカメ ハナゲモ フタモンアカカスミカメ	
			ベイト	本群落では比較的明るい草地に生息するアリ科が多かったが、湿潤な土壌に多く見られるオサムシ科オオゴモクムシも確認された。	アメイロアリ ヒメアリ	オオゴモクムシ
6-2		キシウスズメノヒエ	任意	大きな群落が見られなかったことから、ハエ目ユスリカ科やカメムシ目さわげかに確認するにとどまった。確認個体数も少なかった。	ヨウモンヒメヨコバイ ウスモンミドリカスミカメ	
			ベイト	クモ目やハチ目などが確認されたが、確認種数・個体数は非常に少なかった。	キアシマルガタゴミムシ シバズ	
6-3		メヒシバ-アキノエノコログサ	任意	在来雑草群落の中で最も多くの昆虫類が確認された。本群落は植物体の現存量が豊富であり、イネ科植物に寄生するカメムシ目やハエ目を中心とする多くの昆虫類が確認された。	アカスジカスミカメ ヒトデシウヤホソバエ オオヨコバイ	アカスジカスミカメ オオヨコバイ
			ベイト	明るい草地などに生息するアリ科やオサムシ科セアカヒラタゴミムシ、コオロギ科シバズなど、草地に典型的な種が多く確認された。	アメイロアリ オオズアリ トビイロシワアリ	オオズケゴモクムシ セアカヒラタゴミムシ シバズ
6-4		チガヤ	任意	ユスリカ科やハモグリバエ科を中心としてハエ目が多く確認された。また、これらの昆虫類を捕食していると考えられるクモ目も個体数が多かった。	アキズキユスリカ キララシロカネダモ モモアカハカスミカメ	
	ベイト		草地に生息するアリ科のほか、乾燥した環境に多く見られるハサミムシ科オオハサミムシが多く確認された。	クロヒメアリ オオズアリ オオハサミムシ	オオナガゴミムシ ヒメツヤゴモクムシ	
6-5	クズ	任意	本群落では、群落中で休息していたと考えられるユスリカ科などハエ目の個体数が多かったが、マメ科植物に寄生するコウチュウ目ハムシ科やカメムシ目なども確認され、確認種数・確認個体数は多かった。	アキズキユスリカ オオズアリ マルカメムシ	マルカメムシ メダカナガカメムシ ヒメキバネサルハムシ	
		ベイト	ハチ目アリ科が多く見られたほか、ハラオカメコオロギやミンカドコオロギなど明るい草地に多く生息するコオロギ科が確認された。	オオズアリ アメイロアリ アメイロアリ	ハラオカメコオロギ ミンカドコオロギ	
6-6	トダシバ	任意	イネ科植物に寄生するカメムシ目や草本群落に多いワタ目を確認したが、確認種数は多くなかった。	アカスジカスミカメ ホシササキリ	アカスジカスミカメ	
		ベイト	特定のアリ科の個体数が多かったが、オサムシ科のセアカヒラタゴミムシやコガシラアオゴミムシなど草地や耕作地に多く生息する種が確認された。確認種数はあまり多くなかった。	アメイロアリ オオズアリ	セアカヒラタゴミムシ コガシラアオゴミムシ	
6-7	ネズミノオ	任意	ショウジョウバエ科やハモグリバエ科などハエ目の個体数が多かったが、イネ科植物に寄生するカメムシ目やコウチュウ目ハムシ科も確認された。路傍など攪乱の影響を受けやすい環境に成立する群落であるが、確認種数は他の在来雑草群落とあまり差がなかった。	アカヒゲネソミドリカスミカメ	アカヒゲネソミドリカスミカメ コバキヒョウタンナガカメムシ ヒメドウガネトビハムシ	
		ベイト	草地に生息するアリ科が多かったが、シバズなどのコオロギ科、オサムシ科セアカヒラタゴミムシなど、草地に多く生息する種が確認された。	オオズアリ トビイロアリ	シバズ ハラオカメコオロギ セアカヒラタゴミムシ	

(4) 植物群落別昆虫類確認状況(秋季)

植生番号	河川環境	群落名	調査方法	群落における確認状況	優占種	依存種	
7-1	在来雑草 (笹が濃い)	オギ	任意	ユスリカ科などのハエ目が多く、生息空間として利用しているようであった。また、ヨシ属やススキ属の群落に多く見られるコウチュウ目ダントウムシ科も確認された。そのほか、アリ科の個体数が多かったが、アブラムシ科に誘引されて集まっていた可能性がある。	トビイロクアリ ハナゲモ	カガヤヒメテントウ クロヘリヒメテントウ	
			ベイト	オサムシ科の中でもアオゴミムシやセアカヒラタゴミムシなど草地に多い種が確認されているが、比較的湿潤な環境に出現するオオゴモクムシも見られた。	ミズトビムシ トビイロクアリ トビイロシワアリ	オオゴモクムシ アオゴミムシ	
7-2		メダケ-ネザサ	任意	本群落ではハエ目やハチ目の確認が多かった。また、これらの昆虫類を捕食していると考えられるアシナガダマ科やハエトリグモ科などクモ目も他の群落より多かった。	アキズキユスリカ ウスチャクシマキムシ イトウオアリ		
			ベイト	アリ科の個体数が多かったが、群落の縁部ではオサムシ科アオゴミムシやコオロギ科シバズなど草地に多い種が確認された。また、よく茂った樹林や竹林に多いオサムシ科ヤコンオサムシも確認された。	アメイロアリ オオズアリ キイロシリアダアリ	アオゴミムシ オオゴモクムシ シバズセコオロギ ヤコンオサムシ	
7-3		ススキ	任意	イネ科植物に寄生するカメムシ目アカスジカスミカメの個体数が非常に多かったが、全体的な種数は他の群落と比較すると多くはなかった。	アカスジカスミカメ ハナゲモ サシバエ	アカスジカスミカメ	
			ベイト	草地に多く見られるアリ科のほか、コオロギ科が数種確認された。確認種数はあまり多くなかった。	アメイロアリ キイロシリアダアリ	シバズ ハラオカメコオロギ	
8-1		外来雑草	ヒメムカシヨモギ- オオアレチノギク	任意	本群落ではヨモギに寄生するカスミカメムシ科やコウチュウ目ハムシ科が見られたが、全体的な種数は多くなかった。	ハナゲモ ウスモンミドリカスミカメ コアオカスミカメ	ヨモギハムシ ウスモンミドリカスミカメ コアオカスミカメ
				ベイト	アリ科やコオロギ科などが少数確認されたが、確認種数は多くなかった。	ヒメアリ シワクシクアリ	オオナガゴミムシ クチナガコオロギ
8-2	セイタカアワダチソウ		任意	本群落ではハエ目が多数確認された。調査時はセイタカアワダチソウの開花期であり、確認種の多くはこの花を訪れて産卵中の個体であった。本群落は葉が硬いなど寄主植物として利用しにくいと考えられるため、開花期の秋季以外は本群落を利用する昆虫類は少ないと考えられる。	ヒトデソウヤホソバエ モモアカハチカスミカメ ツマグロキンバエ	【花を利用】 シマハナアブ ツマグロキンバエ	
			ベイト	アリ科やオサムシ科が少数確認されたが、確認種数は少なかった。	アメイロアリ ハラオカメコオロギ	キアシヌレチゴミムシ ニッポンソウヤヒラタゴミムシ	
8-3	セイパンモロコシ		任意	本群落ではハエ目やカメムシ目が多く確認された。カメムシ目の中にはイネ科植物に寄生する種が多かった。また、アブラムシ科を捕食するコウチュウ目ダントウムシ科なども確認された。	ミウオビツヤユスリカ ウスモンミドリカスミカメ ハナゲモ	ウスモンミドリカスミカメ アカスジカスミカメ シラネシカメムシ	
			ベイト	アリ科やコオロギ科など多くの種が確認された。確認種はシバズやハラオカメコオロギなどのコオロギ科やオサムシ科セアカヒラタゴミムシなど草地に生息する典型的な種が多かった。	クロヒメアリ トビイロシワアリ	シバズ セアカヒラタゴミムシ ウスアカクロゴモクムシ	
8-4	シナダレスズメギヤ		任意	本群落ではハエ目やカメムシ目が多く確認されたが、バツ目なども少数確認された。本群落は植物体が枯れている部位が多く、昆虫が利用するピークを過ぎているものと考えられた。	ヒメベッコウハゴロモ ミウオビツヤユスリカ	ヒメベッコウハゴロモ ウスモンミドリカスミカメ	
			ベイト	草地性のアリ科や産卵した環境に生息するハサミムシ目オオハサミムシなどを確認したが、確認種数は少なかった。	クロヒメアリ オオハサミムシ		
8-6	アレチウリ	任意	本群落ではハエ目が多く確認されたが、ウリ科植物に寄生するコウチュウ目ハムシ科やカメムシ目なども確認された。また、ハチ目アリ科が他群落と比較すると多かった。これは植物体の汁液を吸うために集まっていたものと考えられた。	ヒトデソウヤホソバエ トビイロクアリ サシバエ	ウリハムシ ノコギリカメムシ		
		ベイト	比較的明るい環境に生息するアリ科やコオロギ科など、草地に多く見られる昆虫類が多かった。	アメイロアリ オオズアリ	オオゴモクムシ シバズ		

(5) 植物群落別昆虫類確認状況（秋季）

植生番号	河川環境	群落名	調査方法	群落における確認状況	優占種	依存種
9-1	樹木（低木林）	アキニレ	任意	本群落では道徳性のクモ目をはじめコウチュウ目、カメムシ目が確認されたが、出現種数・個体数は少なかった。本群落は海側で形成されており落葉の始まる時期に近かったため、昆虫類の利用が少なかったと考えられる。	アオバハゴロモ ニレワタムシ イトウオオアリ	ニレワタムシ
			ベイト	アリ科やオサムシ科の昆虫類が少数確認されたが、種数・個体数は多くなかった。河川側は必然的に明るい環境を好む種が優占的に生息するため、孤立して形成される鬱閉した樹木群落は利用されにくい可能性がある。	サクラアリ キイロシリアゲアリ	ウスアカクロゴモクムシ ヒメスズ
9-2		ノイバラ	ベイト	草地性のアリ科やコオロギ科が多く確認された。本群落の区分は低木林であるが他の草本群落と構成種に違いはなかった。本群落は群落形成の状態で他の草本群落と類似しているため、草地に生息する種が入り込んでいるものと考えられた。	アメイロアリ トビイロケアリ ハラオカメコオロギ	ヨウホシテントウダマシ ミウカドコオロギ
10-1	樹木（高木林）	エノキ・ムクノキ	任意	本群落ではコウチュウ目が多く確認された。群落に依存するタマムシ科のほか、樹木につくカイガラムシ類を捕食するアントウムシ科なども確認された。また、他の群落では確認されていないシリアゲムシ目やトビケラ目も確認された。	イネキモグリバエ ヒルホソクヂゾウムシ ホソクビアリモドキ	ナミガタチビタマムシ
			ベイト	本群落の区分は高木林であるが、オサムシ科アオゴミムシやその前草地に多いアリ科など草地性の昆虫類が多く確認された。本群落を形成する樹木は雑に生えており地表付近まで日光が届くため、草地性の種が生息していると考えられた。	アメイロアリ オオズアリ	アオゴミムシ ニッポンウヤセヒラタゴミムシ クチナガコオロギ
12-4	人工改変地	人為雑地	ベイト	様々な群落に出現し環境適応力が高いと考えられるアリ科などが少数確認されたが、確認種数は非常に少なかった。地帯付近の雑地は野焼きしたと考えられる灰で覆われており、この影響で昆虫類が忌避している可能性がある。	アメイロアリ トビイロシワアリ	

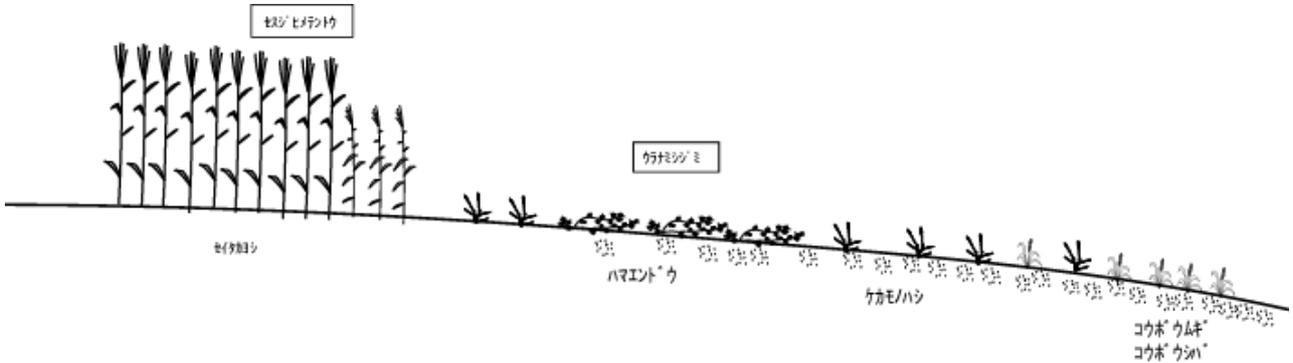
注) 調査法

任意 : 任意採取法  
ベイト : ベイトトラップ法

注) 『依存種』の概念は以下の通りである。

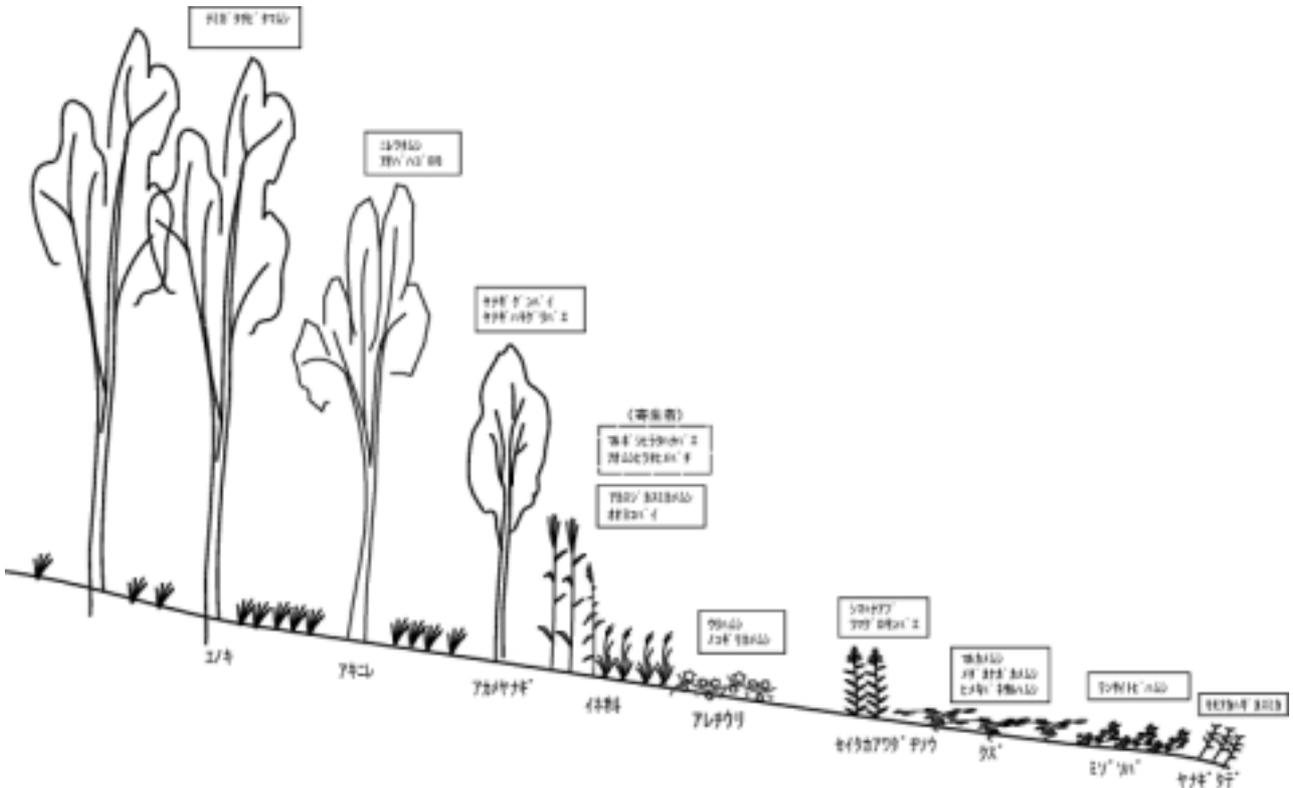
任意；群落形成植物を餌資源としている種。  
ベイト；群落形成される環境に多く生息すると考えられる種。

吉野川の河口干潟には、ハマエンドウ、ケカモノハシ、コウボウシバ、コウボウムギなどの砂丘植生がみられます。これらの植物に依存していると思われる種が、以下の図のように整理できました。



### 砂丘植生に見られる昆虫

また、水際から高水敷にかけては、ヤナギタデ、ミゾソバ、セイタカアワダチソウ、アカメヤナギ、エノキなどが、冠水頻度、土壌条件などの環境条件に応じて、分布しています。前頁の表に整理した結果を基に、植物群落毎に依存している昆虫を以下のように想定します。



### 水際から高水敷にかけてみられる昆虫

下の表は、スウィーピング法による調査の結果を基に、植物群落に依存性が高い昆虫の平均個体数を、表に示しました。ただし、科毎に平均個体数を集計しています。

### 植物群落に依存性が高い昆虫

No.	目	科	草本群落																		木本群落											
			単子葉						双子葉												アカマツキ		アキニレ		エノキ-ムクナギ							
			イネ科		カヤツリグサ科		ミゾソバ	ヤギギク	ワカバ	ハマエンドウ	クズ	ヒメハコ	セイタカアワダチ	アレチウリ	文献	現地	文献	現地	文献	現地	文献	現地	文献	現地	文献	現地	文献	現地	文献	現地		
1	バッタ	オオバッタ	0.24					2.5	3	0.5																						
2		バッタ	0.03	0.67					6																							
3		ヒシバッタ	0.06						1	1																						
4	アザミウマ	クサアザミウマ	0.03																													
5	カメシ	ウツカ	0.67	4.33			0.5			2	0.5											0.5										
6		アバハゴロモ																									3.5					
7		ハコ	0.36							1																						
8		アワキ	0.12	0.17																												
9		シダ	0.03																													
10		アオハ	0.12							4						1																
11		アサギ	0.03	1.17																												
12		アサギ	1.67							2																						
13		アサギ	0.82	0.83			6			1.5	1	0.5	0.5	3.5								2.5										
14		アサギ	1.18	0.83				0.5			3	0.5	0.5	0.5																		
15		アサギ	0.09								2											1										
16		アサギ																								2.5						
17		アサギ	8.36	4.17		0.5	0.5	20.5	1	0.5	18	23.5	1.5														1					
18		アサギ	0.27									2											31									
19		アサギ														1																
20		アサギ	1.91	0.17		1	2	2.5	2		1.5	8.5	8	2.5															0.5			
21		アサギ									6																					
22		アサギ	0.18																													
23		アサギ	0.33																											0.5		
24		アサギ	0.03																													
25		アサギ	0.06									9										0.5										
26		アサギ																				0.5										
27		アサギ	0.39			1				2			0.5	0.5																		
28	コブ	コブ	0.06																													
29		アサギ																														
30		アサギ	0.06	0.17																												
32		アサギ	0.58			11.5	1.5	0.5				1.5	2.5	0.5	0.5											0.5			2.5			
33		アサギ																													0.5	
34		アサギ																													6.5	
35		アサギ	0.03						3	1																						
36	ハチ	ハチ	0.06	0.33																												
37		アサギ	0.12	0.17						2.5	2																					
38		アサギ	0.27																													
39		アサギ	0.03																													
40		アサギ	0.79								1																					
41		アサギ				1			0.5																							
42	ハ	アサギ	0.06	0.33		0.5				1			0.5	2																0.5		
43		アサギ																														
44		アサギ	1.27	0.17			1.5	2.5		1		0.5	1.5	1	0.5															1		
45		アサギ	0.27	1.50		0.5	0.5	0.5		2																					0.5	
46		アサギ	0.42	1.17			1	0.5				1.5																				6.5
47		アサギ	0.06					0.5																								
科数合計			22	37	7	15	16	10	11	8	9	15	21	17	16	14	12	9	17	13	12	11	8	3	8	5	9	10				

注1) 現地欄の数字は1地点当たりの平均個体数です。注3) 表中の色は、以下に示すように、平均個体数が多い項目を示しています。  
 注2) 文献欄の印は図鑑等の文献で出現植物が記載されていることを示しています。

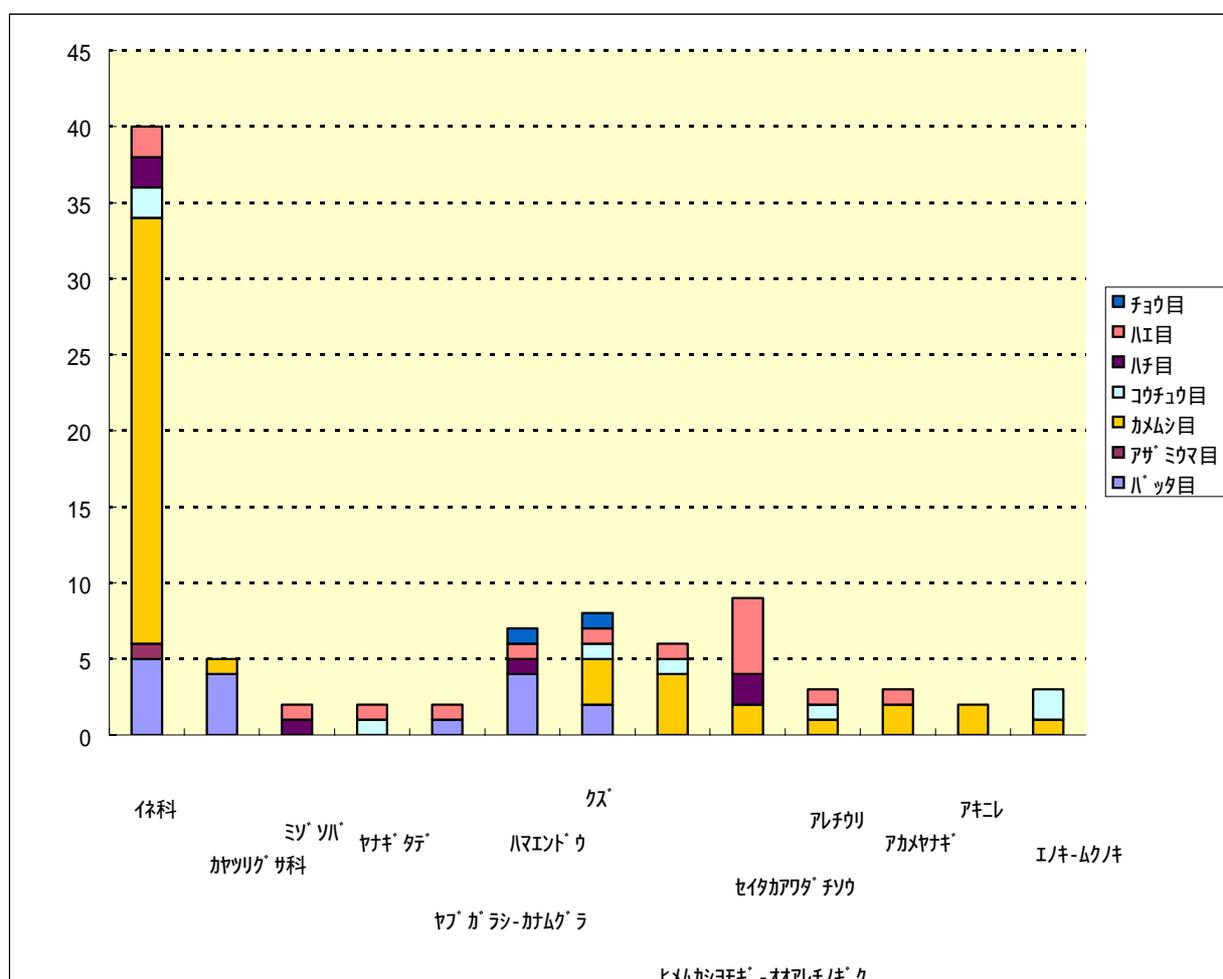


バッタ目は、草本群落のハマエンドウやクズなど、ツル性植物群落で特に多く出現しました。これはバッタ目が地表近くを主要な生息地に行っていることを示しています。地表面まで日光が届きやすい草本群落に、バッタ目が多く生息する可能性があります。また、カスミカメムシ科やハムシ科など、一生のほとんどを同一の寄主植物上で過ごすグループの昆虫類は、種ごとに寄主選択性が強くあります。ミツバチ科やコハナバチ科など、成虫が花の蜜や花粉を摂取して生存している昆虫類は、調査当時に花が咲いていたミゾソバ群落、ハマエンドウ群落、セイタカアワダチソウ群落に多く集まる傾向が見られました。1つの群落だけで確認された昆虫類としては、アキニレ群落で確認されたアオバハゴロモ科やアブラムシ科、アレチウリ群落で見られたノコギリカメムシ科などが挙げられます。これらはそれぞれ特定の群落に依存度が高いものと考えられました。

植物群落に依存すると考えられる昆虫類の種数を群落ごとに図表に示しています。

群落ごとの確認依存種数

目名	草本群落									樹木群落			
	単子葉		双子葉										
	イネ科	カヤツリグサ科	ミゾソバ	ヤナギタテ	ヤブガラシ-カムクラ	ハマエンドウ	クズ	ヒメムカシヨモギ-オオアザミ	セイタカアワダチソウ	アレチウリ	アカメヤナギ	アキニレ	エノキ-ムクナギ
ハッタ目	5	4			1	4	2						
アザミ目	1												
カメムシ目	28	1					3	4	2	1	2	2	1
コウチュウ目	2			1			1	1		1			2
ハチ目	2		1			1			2				
ハエ目	2		1	1	1	1	1	1	5	1	1		
チョウ目						1	1						
合計	40	5	2	2	2	7	8	6	9	3	3	2	3



イネ科群落は、多くの昆虫類が利用しています。特にカメムシ目の依存種が目立ちます。ハマエンドウやクズといったマメ科植物群落も比較的多くの昆虫類が利用しています。ハマエンドウで7種、クズで8種が確認されています。また、セイタカアワダチソウ群落では特にハチ目やハエ目の利用が目立ちます。本群落で見られた昆虫類のほとんどの種が、花を利用していると考えられます。

昆虫は、短い期間で出現する種が変化します。また、毎年同じ状況とは限りません。そのため、今回の調査結果は、ある年、ある時期における吉野川のある地点の状況の一端を反映しているに過ぎません。調査時期が異なれば、先の調査結果も変わります。

先に挙げた昆虫の中で、皆さんが知っている昆虫はどれだけいるのでしょうか。私たちが良く目にする昆虫は、昆虫全体のごく一部の種類です。私たちが吉野川で普通に目にする昆虫には、次のようなものがあります。



オンブバッタ



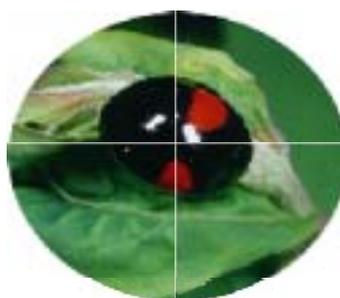
アオクサカメムシ



マルカメムシ



ナナホシテントウ



ナミテントウ



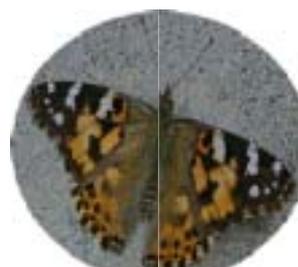
アオスジアゲハ



ベニシジミ



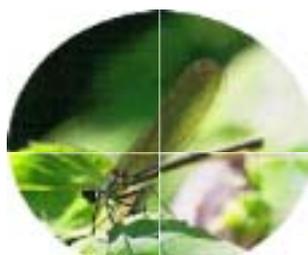
ナミアゲハ



アカタテハ



シオカラトンボ



ニシカワトンボ